

けんぱくものしりシート

どうぶつがたどせいひん 動物形土製品



どうぶつがたどせいひん
動物形土製品
もりおかししいせきしゅつど
盛岡市萩内遺跡出土

これ、動物の
にんぎょう
人形かな。
「動物形土
せいひん
製品」ってい
うんだって。



ケンくん

どうせいひん
土製品？
どうぐう
土偶とは
ちがうの？



ハクちゃん



かいせい
解説員

どうせいひん つち ざいりょう や どうぶつがた どうせいひん
土製品は、土を材料にした焼きもののことよ。動物形土製品はさ
まざまな動物をかたどったもので、東北地方を中心に、縄文時
代 とうぶん じ だい の後 ころ き から ばん き やく 2500 ねん まえ
期の後 ころ き から ばん き やく 2500 ねん まえ 年 前 にかけて多く作られた
の。ちなみに「土偶」は人形の土製品をさすのよ。

どんな動物が
つく
作られたの？



いのしし・くま・サル・トリ・イヌ・貝など、さまざま
な動物が作られているわ。特にイノシシは東日本を
ちゅうしん ひろい ちいき じょうもん じ だい
中心に広い地域で見つかっていて、縄文時代
の動物形土製品の半数以上を占めているの。
この萩内遺跡出土のものも、イノシシを
かたどっていると考えられているわ。

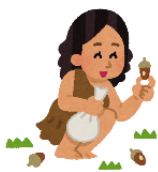


へえ、なぜイ
ノシシが多
いんだろう。



じょうもん じ だい か りょう しょくぶつ さいしゅう た もの え しゅりょうさいしゅう
縄文時代は、狩りや漁や植物の採集などで食べ物を得る「狩猟採集」の
せい かつ せいかつ
生活で、イノシシは主な獲物のひとつだったの。また、縄文時代の遺跡か
らイノシシをまいそう せいかつ せいひん じ だい いせき
埋葬したものが見つかっている例もあるので、
え もの 獲物としてだけではなく、ウリボウ（イノシシの子ども）

を飼うなど、イノシシをととも身近な動物
として感じていたのかも知れないわね。



ほかに動物をかたどったと思われる不思議な形の土製品もいろいろと出土しているの。どんな目的で作られたかはわからないけれど、そのころの人々も、粘土細工のように身近な動物を作って遊んだり楽しんだりしたこともあったかも知れないわね。ちなみに、森内遺跡からはタカをかたどったと考えられる土器、「鳥形注口土器」（けんぱくものしりシート考古No.21）も出土しているわ。



岩手県からはどれくらい動物形土製品が出ていますの？



北上川流域を中心に40か所近い遺跡から50点以上が見つかったわ。その中から2つ紹介するわね。



所蔵：一関市博物館

コノハズク形土製品

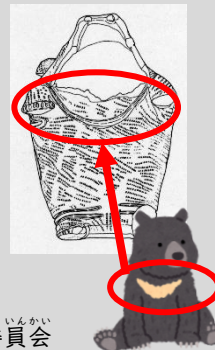
一関市・草ヶ沢遺跡
縄文時代晩期（約3000～2500年前）

フクロウの仲間であるコノハズクに似ていることから名づけられました。体の部分が空洞になっていて、吹くと「ホーホー」という音がするため、笛として使われていたとも考えられます。



クマ形土製品 二戸市・上杉沢遺跡 弥生時代（約2500～1700年前）初頭

一見イノシシのようにも見えますが、丸い耳や指をあらわすような刻みが入った手、そして胸のU字形の模様から、ツキノワグマを表しているとされています。お尻の部分が平たくなっていることから、立てた状態でも四本足の状態でも置くことができます。



所蔵・図版提供：二戸市教育委員会

おもしろいね！ほかにどんな動物のものがあるのかな。



しら調べてみよう！

引用・参考 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2018年 『平成30年度秋季企画展 図録 どうぶつと縄文』他

- 「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。
- 「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214

岩手県立博物館

検索

HPにてバックナンバー公開中！

けんぱくものしりシート

『動物形土製品』

2024年8月発行 考古—No.29

■参考文献

- ・八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 2018年『平成30年度秋季企画展 図録 どうぶつと縄文』
- ・仙台市富沢遺跡保存館（地底の森ミュージアム） 2011年『平成23年度企画展 動物の考古学』
- ・仙台市富沢遺跡保存館 1999年『地底の森ミュージアム平成11年度特別企画展展示解説図録 動物デザイン考古学—縄文人の作った小さな動物たち—』
- ・（株）ニューサイエンス社 2004年『月刊 考古学ジャーナル 5月号 特集：縄文時代の動物土製品』
- ・東北歴史資料館 1996年『東北地方の土偶』
- ・東北学院大学大学民俗学OB会 1998年『東北民俗学研究 第6号』
- ・岩手日報社 2000年『いわて未来への遺産 遺跡は語る 旧石器～古墳時代』
- ・市立函館博物館 2014年『市立函館博物館館報サラニップ No.53』
- ・岩手県立博物館 2003年『これなあに？ 考古 No.48』
- ・国立歴史民俗博物館 2003年『国立歴史民俗博物館研究報告 No.108 縄文時代のブタ飼育について』
- ・Kyoten products 『縄文ドキドキ会』 <https://jomondoki.com/>
- ・二戸市教育委員会文化財課 『二戸市埋蔵文化財センター・収蔵遺物データベース』
<http://www.edu.city.ninohe.iwate.jp/~maibun/bunkazaikaindex.html>
- ・文化庁 『文化遺産オンライン』 <https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/206960>
- ・千葉市立加曽利貝塚博物館 『加曽利貝塚博物館・館長の考古学日記』
<https://www.city.chiba.jp/kasori/infomation/diary.html>